

# ヒット化合物の効率構造展開による医薬リード育成

## [技術の概要]

フェノタイプアッセイ等、医薬創製に向けてアカデミアで見出されたヒット化合物は、その構造のままでは、活性面・安全性面・薬物動態面等の観点からは十分ではありません。さらなる構造展開が必要です。この構造展開には、創薬経験や実践等の、いわゆる現場感覚が重要です。

制御拠点合成領域岡山大学では、製薬企業出身の、創薬研究経験豊富な複数のアカデミア研究者が、化合物効率合成システムを駆使して、ヒット化合物をリード化合物へ押し上げる創薬研究技術を提供しています。



## [技術の利用例]

- 1) 東京大学よりの依頼支援  
“肺高血圧症治療剤創製を目指した化合物の創製”課題の合成を支援し特許出願  
(特願2013-247446)
- 2) 岡山大学よりの依頼支援  
“分子標的型抗癌剤(特に抗脳腫瘍治療薬剤)の創製”課題の合成を支援し特許出願  
(特願2012-263317)

## 連絡先

[所属] 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

[名前] 宮地弘幸

[E-mail] miyachi@pharm.okayama-u.ac.jp